

令和5年度 内子高等学校 シラバス

教 科	国語	科 目	論理国語	単位数	2 単位	学 年	2 学年 (一般・進学理系)
教科書	新論理国語 (三省堂)		副教材等	現代語練習帳ことのは 改訂版 (いっずな書店) デジタル版 カラー版新国語便覧 (第一学習社)			

1 学習の目標

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにします。
- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

2 学習の内容

学期	単元・項目	学習の内容	備考
第1学期	入門 言葉のはたらきを考える 言葉は平等な内面を作り出す	・文章を踏まえて言葉の持つはたらきについて自分なりの考えをもちます。	中間 期末 考 査
	1 論点を整理するために ＜要旨を把握する＞ 自分を捉え直す ＜情報を整理し活用する＞ 情報を整理する	・筆者の主張を捉えたり、対比的なキーワードに着目しながら内容や構成を捉えたりします。 ・情報を整理し、伝えたいことに対して適切な情報を構成する力を養います。	
	2 正しく推論するために ＜データを整理し書き手の意図を捉える＞ カタカナ語は享受すべきか ＜的確に伝える＞ 文章をリフォームする	・文章の効果的な組み立て方を深く理解し、文章や資料の妥当性や信頼性を検討します。 ・文や文章の効果的な組み立て方について理解を深めます。	
第2学期	3 事例の意味を深めるために ＜事例の役割と意味を捉える＞ 多様な視点から考える ＜根拠を明確にして考えを述べる＞ 意見を書く	・文章に用いられている事例と筆者の主張との関係を捉えます。 ・伝えたい内容の中心が明確になるよう、文章の構成や明確さを意識して意見をまとめます。	中間 期末 考 査
	4 構成を吟味し説得力を高めるために ＜文章や論理の攻勢を捉える＞ 落語中の経済学 ＜論拠を吟味し伝えたいことを明確にする＞ レポートを書く	・文章や論理の構成を基に筆者の主張を捉え、推論の仕方を確認します。 ・未完成のレポート例に付け足しを行い、論拠や伝えたいことを明確にする書き方を学びます。	
	5 信頼性を吟味するために ＜情報を分析する＞ 情報の内容を吟味する ＜根拠や例示の適切さを確かめる＞ なぜ私たちは労働するのか ＜立場や論点を明確にする＞ 投書を書く	・データを読み取って分析する観点を身に付け、根拠や論拠となる情報の妥当性を検証します。 ・筆者の言う「若者たち」の労働観と「労働の本質」の差異を読み取ります。 ・体験や事実を、自分の考えを述べる際の根拠となるよう妥当性のある情報として構成します。	
第3学期	6 隠れた前提を探するために ＜論拠を批判的に検討する＞ スポーツとナショナリズム ＜立場の異なる読み手を説得する＞ レビューを書く	・文脈に沿って筆者の主張を的確に理解し、筆者の論の進め方や論拠を批判的に検討します。 ・情報を批判的に検証し、レビューを書く上で必要となる情報収集や整理方法を身に付けます。	学年末 考 査

3 評価の規準

【知識・技能】

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価方法

学期毎に、上記の評価の規準の三つの観点から、学習活動への取組、定期考査、小テスト、ノート、プリント、レポートについて評価します。また、各学期の評価を総括し、学年末の成績をA・B・Cで評価します。

5 学習のアドバイス

各教材の冒頭に、各単元のテーマや身に付けたい国語の力が示してあります。例えば、教科書(P.24～P.30)「自分を捉え直す」の文章については、テーマが＜論点を整理するために＞とあり、身に付けたい国語の力が＜要旨を把握する力＞とあります。これらを意識するだけでも学習の成果は増します。授業はもちろんのこと、予習や復習の前にも必ず読んで確認しましょう。

教科書には、教材ごとに文章の前に「学習活動」が示されているので、具体的な問題に取り組むことができます。また、文章の下端には「発問」も示されているので、読解の手掛かりにできます。これらを丁寧に押さえながら学習に取り組めば、授業の内容もきちんと理解できるようになります。

ほかにも、教材の中に、書く力を養うための「学習活動」があります。グループ活動はもちろんこと、「どのようにあなたは考えるか」を問う記述の課題など、積極的に取り組みましょう。授業や読書などインプットを通じて知識や技能を身に付けるだけでは不十分です。自分の頭で考えて、まとめて、アウトプットすることで、学習効果はより一層高まります。インプットとアウトプットのバランスをとりながら学習する方法が、最も効果的です。